

病害虫発生予察指導情報

(ナシ・シンクイムシ類 No.1)

平成24年8月3日
鳥取県病害虫防除所

1. 情報の内容

性フェロモントラップの誘殺数が、例年と比較して多い地点が散見される。今後、シンクイムシ類の発生密度が増加する時期を迎えるため、防除の徹底が必要である。

2. 情報の根拠

- (1) 7月下旬現在、シンクイムシ類の誘殺数がやや多い地点(図1、2)が認められている。
- (2) 8月上旬現在、県予察ほ場(北栄町、ゴールド二十世紀、無袋、殺虫剤無散布)では、シンクイムシ類の被害果率が3.2%(平年:1.7%)と平年と比較してやや多い。
- (3) 現地の赤ナシ(無袋栽培)園でシンクイムシ類の被害が多い園がみられている。
- (4) 向こう1か月の気象予報は、本種の発生にやや好適である。今後、シンクイムシ類の発生量が増加する時期を迎えるため、防除の徹底が必要である。

3. 防除上注意すべき事項

- (1) 二十世紀、豊水などでは、アグロスリン水和剤2,000倍液などを使用し、収穫前の防除を徹底する。なお、アグロスリン水和剤はカメムシ類に対する効果も高い。
- (2) 晩生品種(新高、新興、王秋他)は、8月中下旬~9月中旬頃が重要な防除時期となるため、アグロスリン水和剤2,000倍液、サムコルフロアブル10の5,000倍液、フェニックスフロアブル4,000倍液などを使用し、防除を徹底する。
- (3) 園内のクリーン作業を徹底する。授粉樹の摘果、裸梨、被害果の徹底処分など、シンクイムシ類の発生源は早急に除去する。

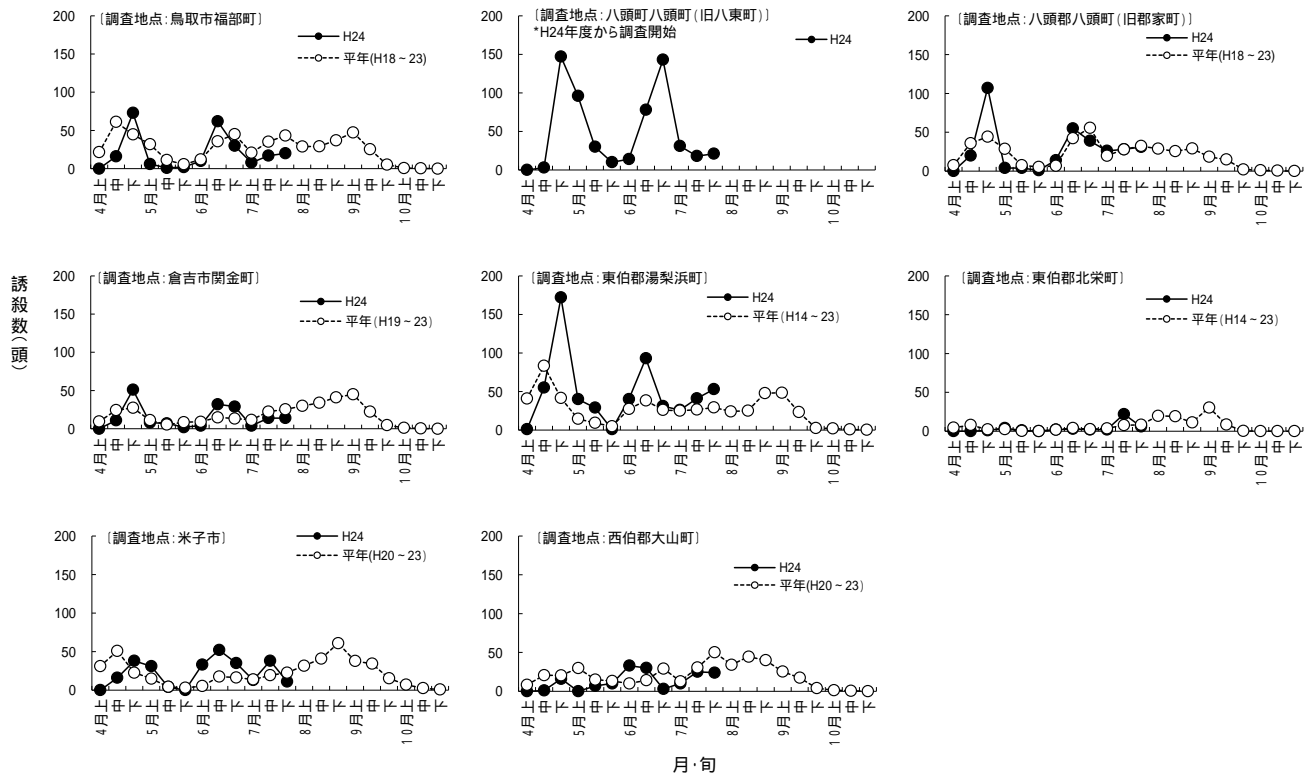


図1 フェロモントラップにおけるナシヒメシクイ雄成虫の誘殺消長

*調査は各普及所、防除所で実施

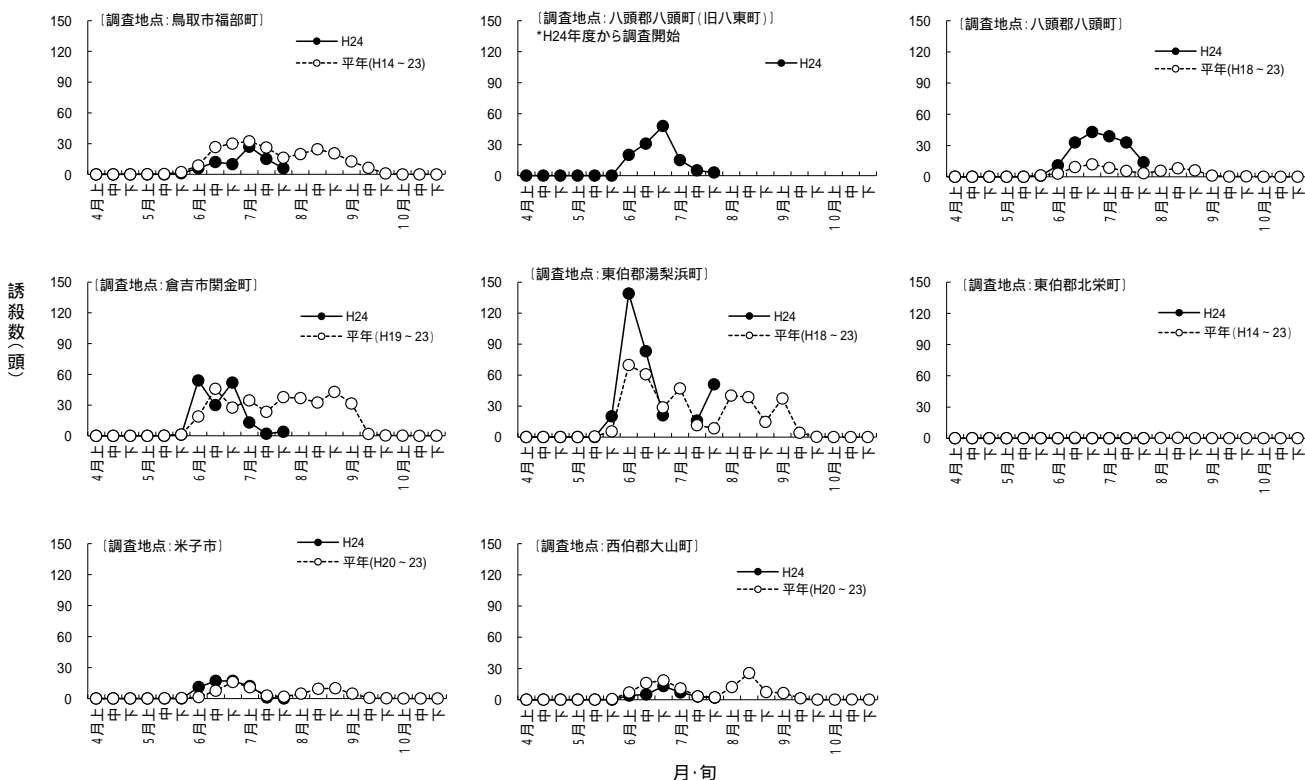


図2 フェロモントラップにおけるモモシクイガ雄成虫の誘殺消長

*調査は各普及所、防除所で実施